

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成21年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックに対する本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成21年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 21 年 7 月～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、多賀城・七ヶ浜、くろかわ、加美
美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑

(2) 対象企業数 1 5 0 企業

(3) 回答企業数 1 4 5 企業

2. 調査対象期間

平成 21 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 21 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
(2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 4
小 売 業	4 3
サービス業	4 4
合 計	1 4 5

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転・長期化)企業割合と減少(低下・悪化・短期化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 21 年 7 月～9 月)の景況調査結果から、産業全体の業況D I は、 $\Delta 60.7$ (前期 $\Delta 66.9$) であり 6.2 ポイント改善した。

一方、主要 3D I も、売上額が $\Delta 52.0$ (前期 $\Delta 64.9$)、採算が $\Delta 55.2$ (同 $\Delta 65.5$)、資金繰りは $\Delta 49.2$ (同 $\Delta 56.2$) といずれも好転。需要停滞、特に冷夏による商況不振の声は依然根強いものがあるが、他方、エコポイント等の経済対策効果の声もあったこと、又来期の見通しについても、製造業、サービス業を中心に更に好転見通しであることより、今期の景況認識は、全体として、前期に比較して改善がみられた。

但し、別表 1～4 に見るとおり、各業種とも、主要項目のマイナス値が、全国、東北に比較して大きく、依然、経営環境の厳しさがうかがえる。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

建設業は横ばい、製造業、小売業、サービス業はともに上昇した。

なお、売上が「増加・上昇」の回答は製造業が全体の 14.7% (前期 5.9%)、小売業は 19.0% (同 7.1%)、サービス業が 11.4% (同 4.8%) と増加、建設業は 4.2 ポイント減少した。

② 採算の状況

全業種が改善した。特に建設業は 22.7 ポイント改善、小売業 14.0 ポイントの改善幅が大きく、製造業、サービス業は改善幅としては小幅であった。

③ 設備投資の状況

前期に引き続き全業種が、新規設備を実施した。

小売業の実施割合は全体の 14.0% (前期 9.1%) で前期を上回り、他は、概ね前期並みか減少した。来期の設備計画も、全業種に設備計画あるが、全体として、今期を下回る計画となっている。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

全国の小売業、サービス業は若干の下降、他は上昇した。一方、東北、宮城は全業種にわたり上昇した。ただし全国の下降も小幅であることより、全体として売上額については改善傾向を示しているものと言える。

表—1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 59.0	△ 52.7	△ 58.4	△ 48.6	△ 73.5	△ 61.8
建 設 業	△ 47.7	△ 41.5	△ 38.9	△ 30.6	△ 49.9	△ 50.0
小 売 業	△ 51.4	△ 54.1	△ 50.7	△ 46.0	△ 62.0	△ 45.3
サービス業	△ 46.0	△ 48.5	△ 49.6	△ 46.8	△ 69.0	△ 52.2

② 採 算

表—2 のとおり、全国、東北、宮城とも全業種が概ね改善傾向を示した。

特に宮城の建設業の改善幅が 22.7 ポイントと大きい。反面、製造業のマイナス値は 70 台で推移、製品価格の低下・上昇難等で採算面の厳しさがうかがえる。

表—2 採算の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 57.3	△ 53.7	△ 58.5	△ 50.7	△ 72.8	△ 70.7
建 設 業	△ 56.0	△ 52.3	△ 49.7	△ 46.6	△ 75.0	△ 52.3
小 売 業	△ 47.2	△ 46.8	△ 49.4	△ 47.2	△ 62.7	△ 48.7
サービス業	△ 46.0	△ 46.3	△ 46.9	△ 43.0	△ 57.1	△ 51.2

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額の来期見通しは、製造業、サービス業の改善予測に対して、建設業、小売業は悪化予測となった。特に、サービス業の改善幅が大きい。

採算は、小売業が悪化、他は好転予測であり、その結果小売業は、売上高、採算ともに下降予測となった。需要の停滞、競争の激化要因による先行き不安等、厳しい予測となっている。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額は、表－3の通り、全国、宮城とも製造業、サービス業が好転見通しに対して建設業は、厳しい見通しとなった。

一方、採算は表－4の通り、全国は全業種が好転予測、宮城は、小売業に厳しい予測あったが、他は好転予測であり、特に製造業の改善幅が大きい。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 52.7	△ 42.7	△ 61.8	△ 44.2
建 設 業	△ 41.5	△ 46.9	△ 50.0	△ 58.4
小 売 業	△ 54.1	△ 50.1	△ 45.3	△ 60.5
サービス業	△ 48.5	△ 44.9	△ 52.2	△ 34.9

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 53.7	△ 44.3	△ 70.7	△ 55.9
建 設 業	△ 52.3	△ 47.2	△ 52.3	△ 49.9
小 売 業	△ 46.8	△ 45.2	△ 48.7	△ 60.0
サービス業	△ 46.3	△ 42.3	△ 51.2	△ 41.9

2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは、前期比11.7ポイント、採算は2.1ポイント、資金繰り2.8ポイントと主要項目全てが上昇した。

売上が「減少・悪化」の回答が全体の76.5%を占め、依然受注環境の厳しさがうかがえる。

一方、来期の見通しは、売上額、採算、資金繰りとも改善予測となった。

経営上の問題点は「需要の停滞」を第一位に掲げた企業が全体の50.0%（前期67.7%）であり、今期も需給要因が主流となっている。

新規設備実施企業は、全体の14.7%（前期17.6%）、来期の設備を計画している企業は、全体の8.8%である。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加・上昇」と回答した企業は、14.7%で前期比8.8ポイント増加した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比2.9ポイント減少の76.5%となり、結果として売上額DI△61.8は前期比11.7ポイントの改善となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

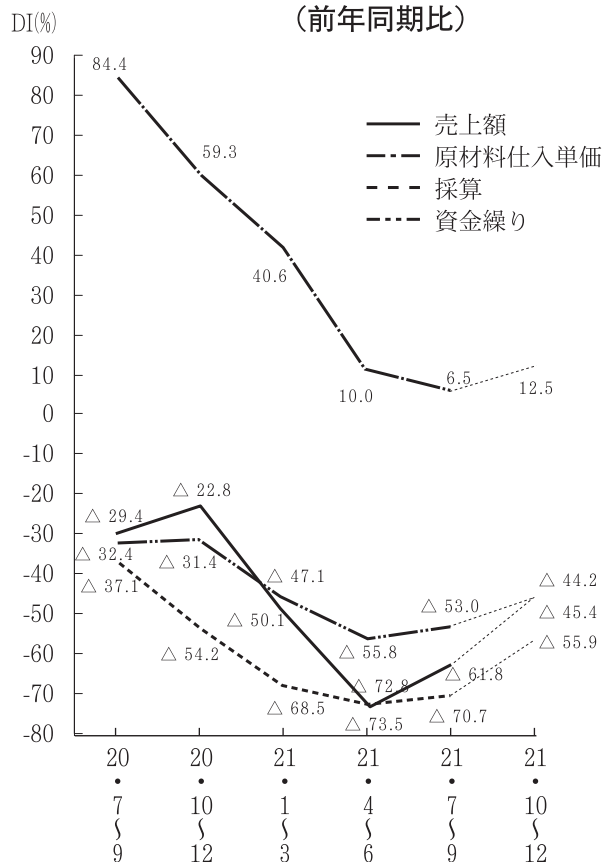
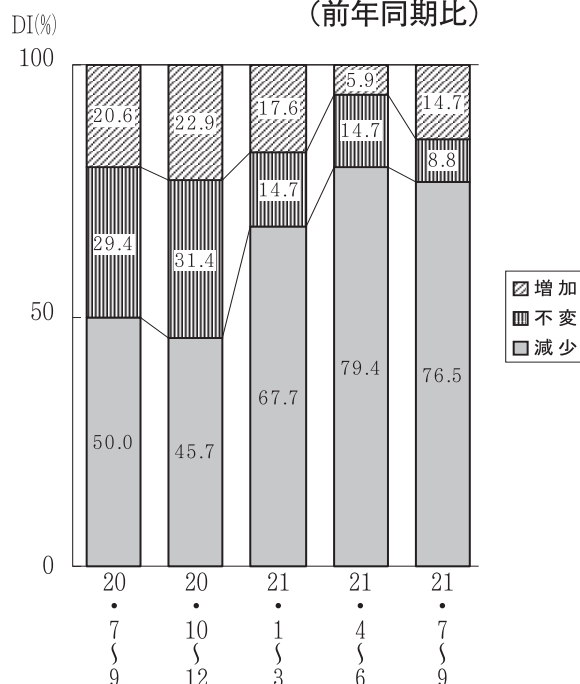


図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)



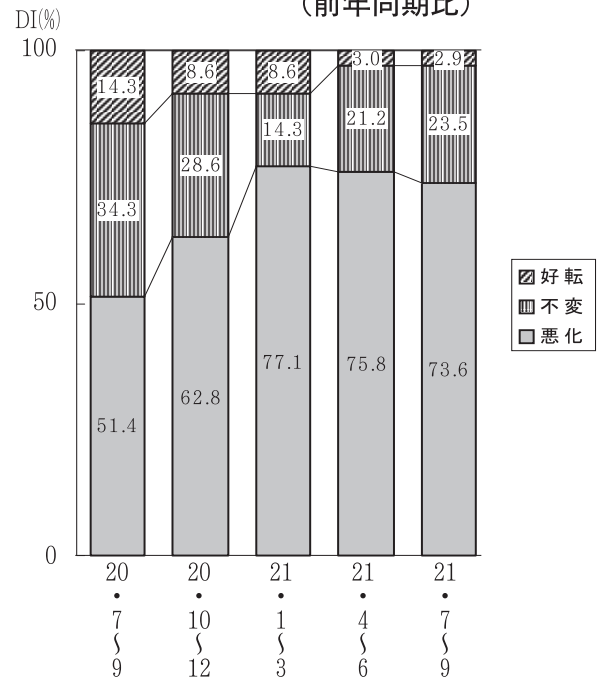
(b) 採 算

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 2.9%でほぼ前期並みの推移であった。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は 73.6%(前期 75.8%)と依然高率を維持している。

その結果、採算DIは△70.7(前期△72.8)と若干改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



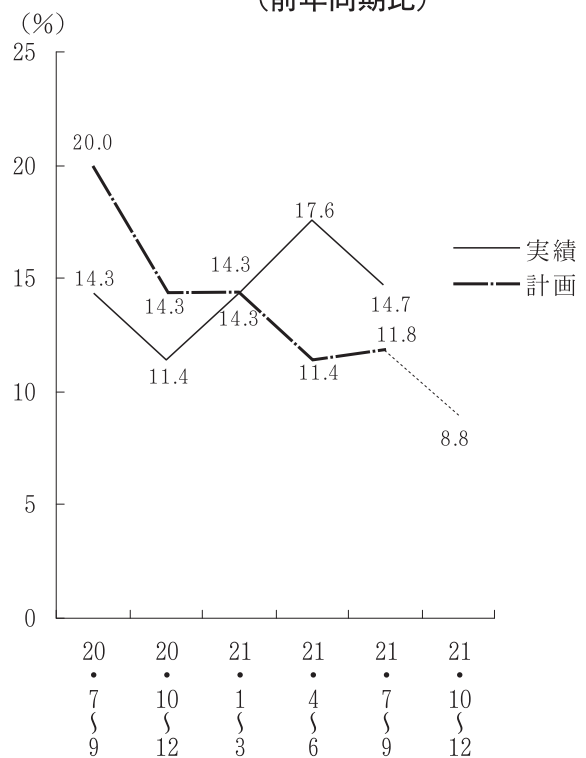
(c) 設 備 投 資

今期の新規設備実施企業割合は、全体の 14.7%で、前期 (17.6%) に比較して減少した。

その設備内容は、生産設備、車両運搬具、OA 機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 8.8%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、その他を計画している。

図 1 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)

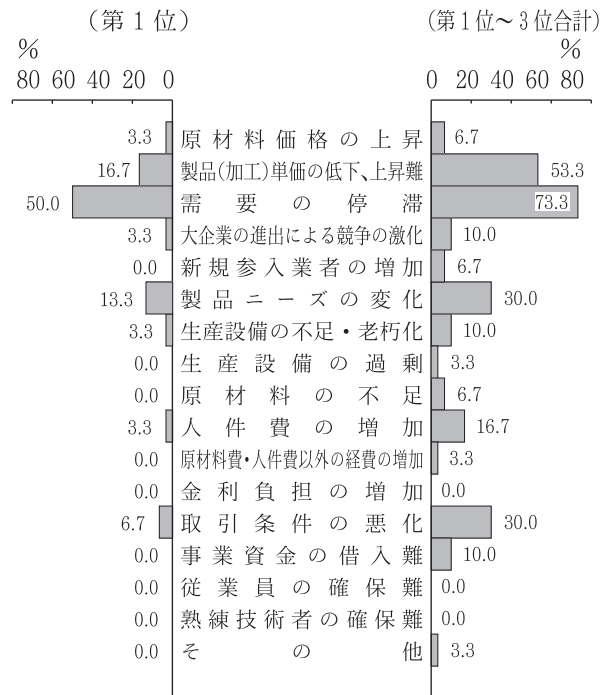


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」が全体の50.0%、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が16.7%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が73.3%（複数回答以下同じ）、「製品単価の低下・上昇難」が53.3%、「取引条件の悪化」「製品ニーズの変化」が30.0%と続いている。

図1-5 経営上の問題点



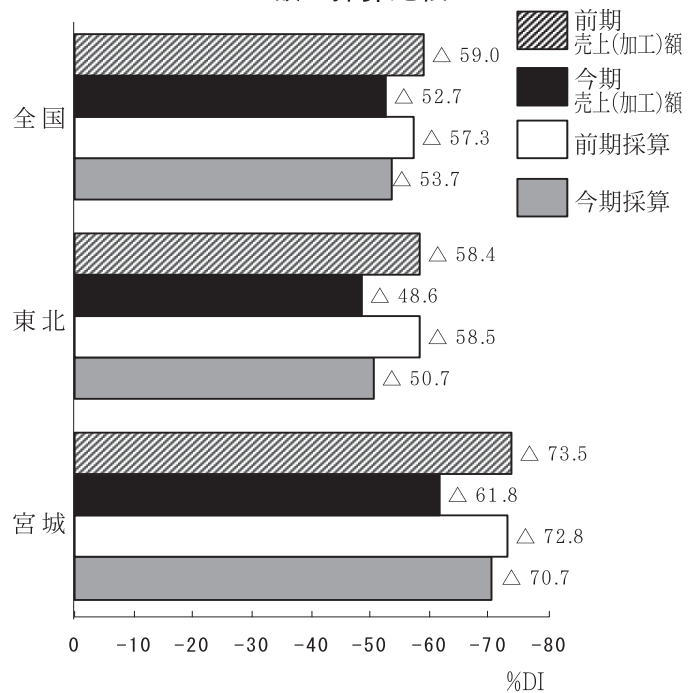
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城とも上昇した。

一方、採算DIは、売上額同様、全国、東北、宮城ともに改善したが、宮城のマイナス値は70台と突出したものとなっている。

なお、業況(自社)DIは、全国が△54.0（前期△58.7）、宮城は△67.7（前期△75.0）であり、自社の業況認識についても全国との数値差は大きい。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較



(2) 建設業の動向

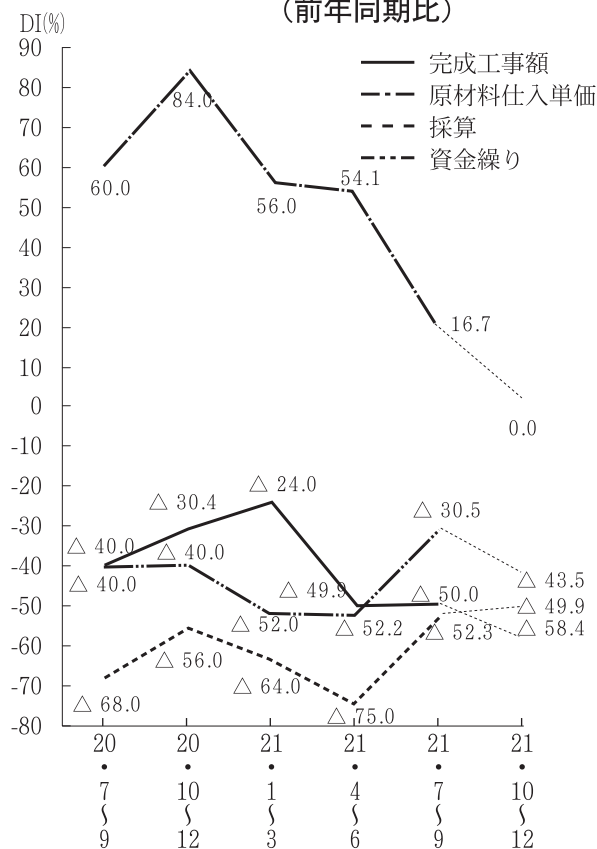
① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事額は、ほぼ前期並み、採算は22.7ポイントの改善、資金繰りも前期比21.7ポイントと大幅に改善した。

経営上の問題点として、従来の「民間需要の停滞」、「請負単価の低下・上昇難」に加え、今期は「大企業進出による競争の激化」の台頭が目立った。

なお、業況DI $\Delta 62.4$ (前期 $\Delta 70.8$) も改善したが、来期見通しについては依然厳しいものがあり、完成工事高、資金繰りについては今期を下回る見通しとなっている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

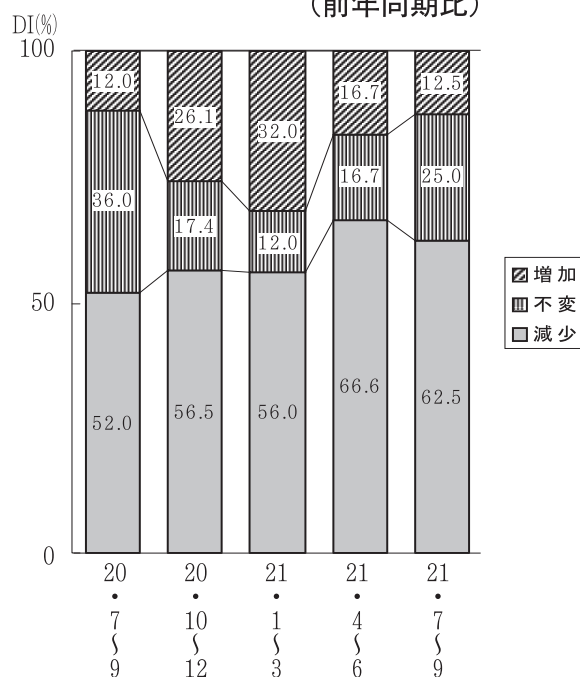
(a) 完成工事額

前年同期比で「増加・上昇」回答は全体の12.5% (前期16.7%) に減少した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、全体の62.5% (同66.6%)、その結果、完成工事高DIは $\Delta 50.0$ で前期並みの推移であった。

来期の見通しは、今期に比較して更に下降予測であり、厳しい経営環境がうかがえる。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)



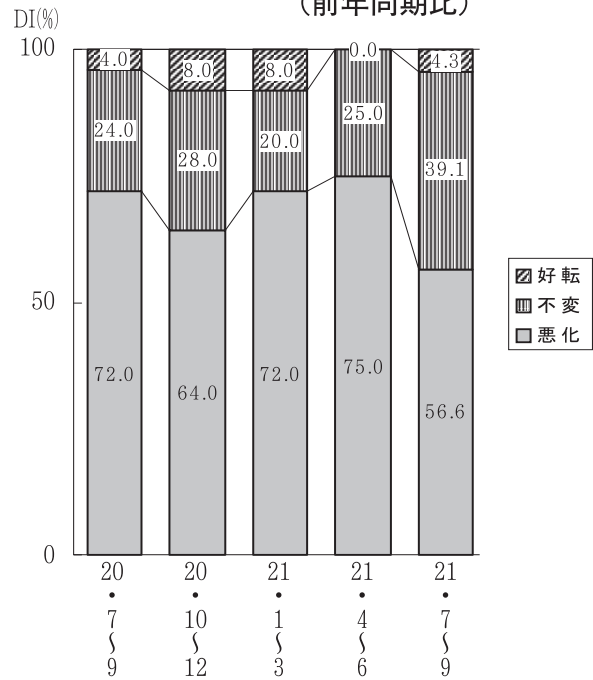
(b) 採算

前期皆無であった「好転・上昇」の回答は、今期は全体の4.3%に増加した。

一方、「減少・悪化」と回答した企業は、前期比18.4ポイント減少の56.6%で、採算DIは、前期比22.7ポイント上昇して△52.3と大幅に改善した。

来期の採算見通しは、更に改善予測となっている。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

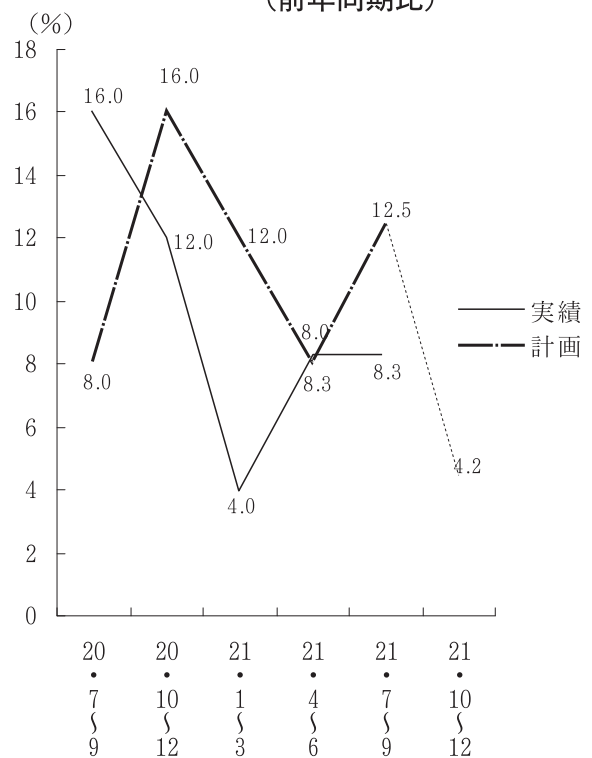


(c) 設備投資

今期、新規設備を実施した企業は、全体の8.3%で、その設備内容は、車両運搬具である。

来期に設備計画している企業は、全体の4.2%で、その設備内容は、建物、機械設備、車両運搬具等を計画している。

図2-4 設備投資の状況
(前年同期比)



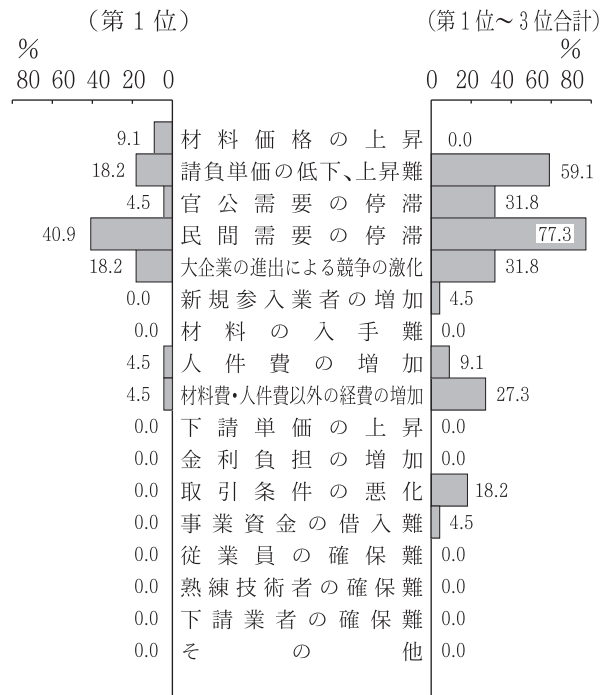
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」が40.9%、「請負単価の低下・上昇難」及び「大企業進出による競争の激化」が18.2%の結果となった。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が77.3%（複数回答以下同じ）、「請負単価の低下・上昇難」が59.1%、「大企業進出による競争の激化」が31.8%と続いた。

従来の「需要停滞」に加え「大企業進出による競争激化」回答の増加が目立つ。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

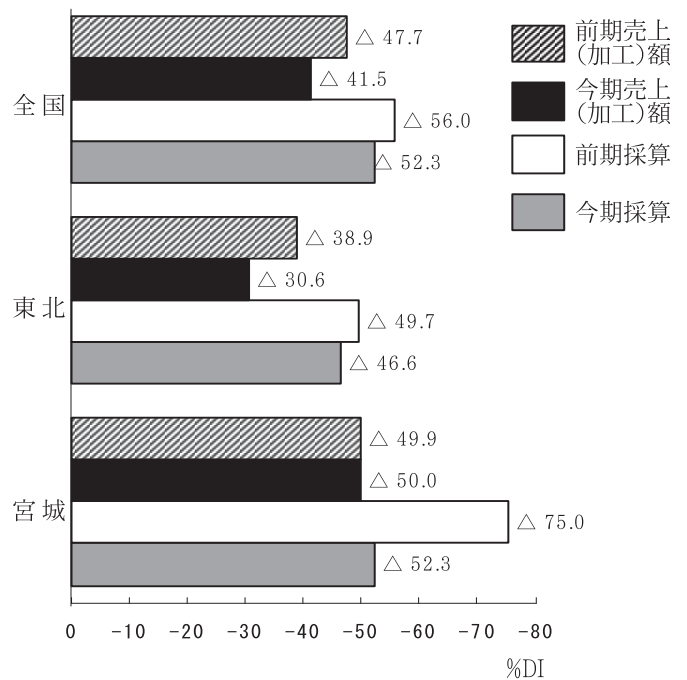
売上額(完成工事額)は、全国、東北が上昇、宮城は、横ばい状態であった。

採算は、全国、東北、宮城とも改善、特に宮城は22.7ポイントと改善幅が大きい。

来期見通しについては、売上額(完成工事高)は、全国、宮城ともに悪化予想となった。

採算は、全国、宮城とも改善予測であるが、その改善幅は小幅なものである。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



(3) 小売業の動向

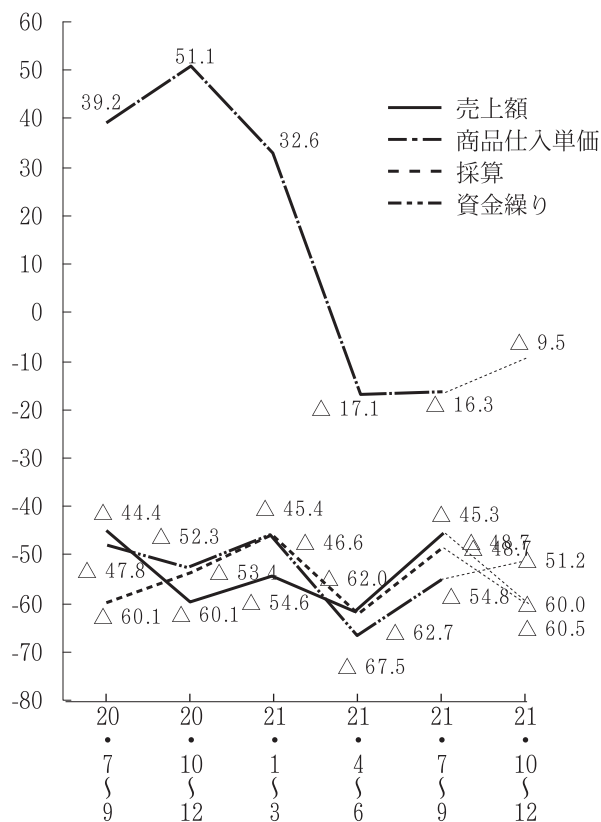
① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは 16.7 ポイント、採算D Iは 14.0 ポイントそれぞれ上昇、自社の業況D Iについても△59.0(前期△65.8)と改善した。

資金繰りD Iは、前期比 12.7 ポイント改善の△54.8 となったが借入難度については、長・短資金ともに難度が増し、借入金利についても負担増の結果となった。

来期の見通しは、売上額、採算が悪化、資金繰りは、小幅ながら改善の見通しとなった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

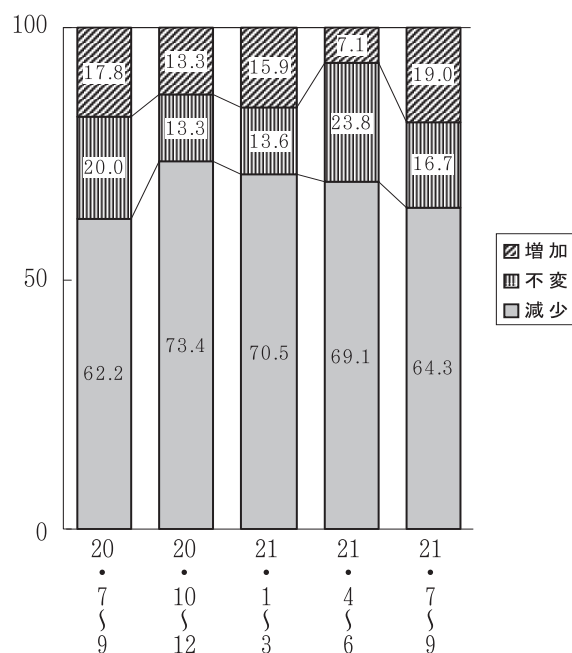
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」と回答した企業は全体の 19.0%(前期 7.1%)と増加した。

一方、「減少・悪化」の回答は全体の 64.3%(前期 69.1%)と高率ながら若干減少した。

その結果、売上額D Iは前期比 16.7 ポイント好転した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)



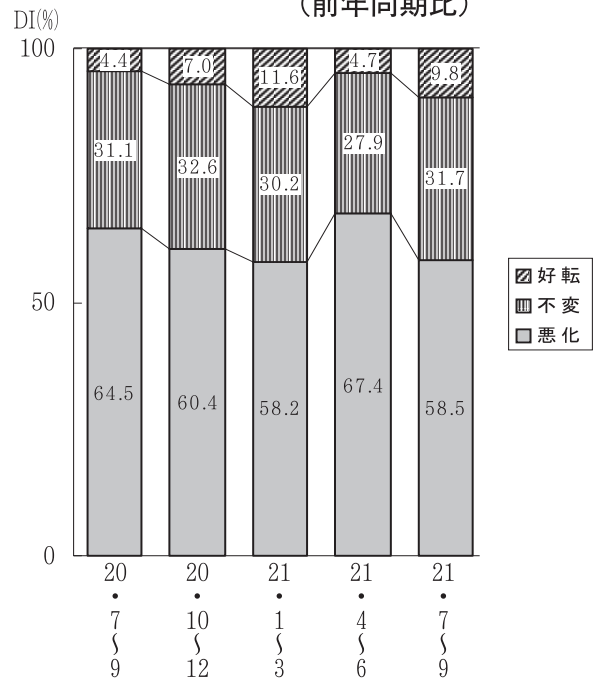
(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は、全体の9.8%で前期比5.1ポイント増加。

一方、「悪化・低下」の回答は全体の58.5%で前期比8.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△48.7となり、前期比14.0ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

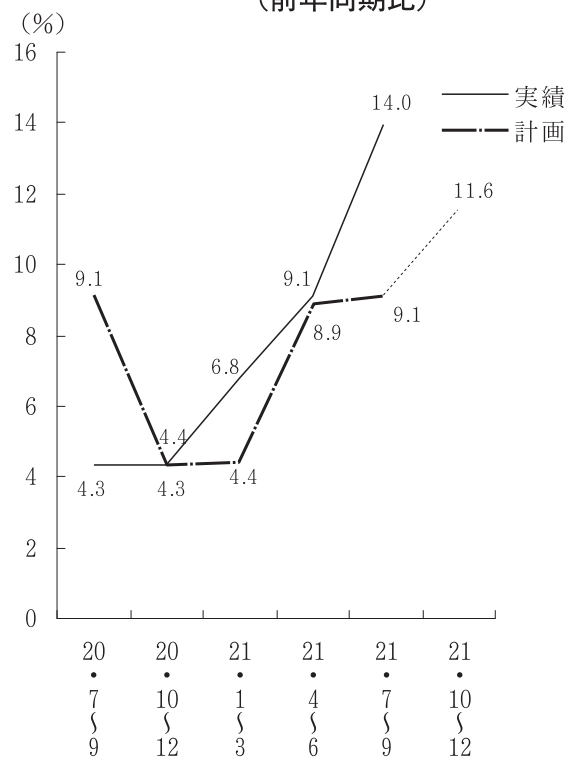


(c) 設 備 投 資

今期の設備実施企業割合は、全体の14.0% (前期9.1%)と増加。その内容は、土地、販売設備、付帯設備、OA機器等である。

来期に設備計画している企業は11.6%で、その内容は、店舗、車両運搬具、OA機器等を計画している。

図3-4 設備投資の状況
(前年同期比)

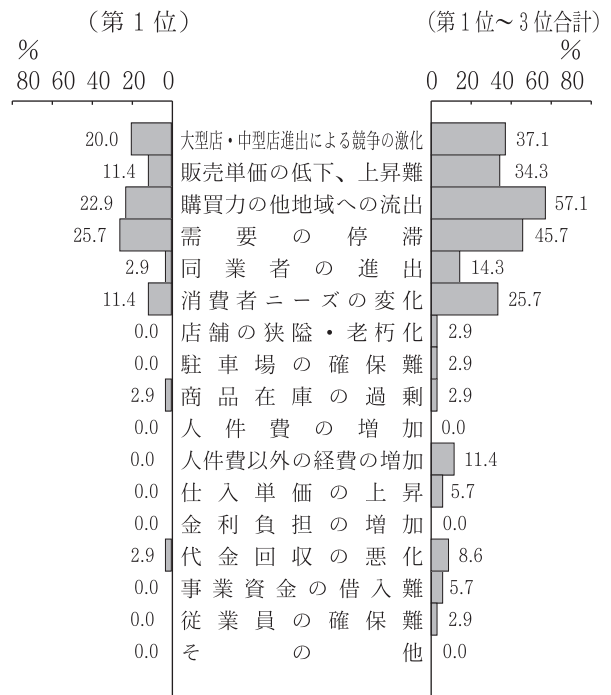


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が25.7%、次いで、「購買力の他地域への流出」が22.9%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が20.0%と続いている。

重要度第1位から第3位合計は、「購買力の他地域への流出」が57.1%(複数回答以下同じ)、「需要の停滞」が45.7%、「大型店・中型店進出による競争の激化」が37.1%、「販売価格の低下・上昇難」が34.3%の結果となった。

図3-5 経営上の問題点



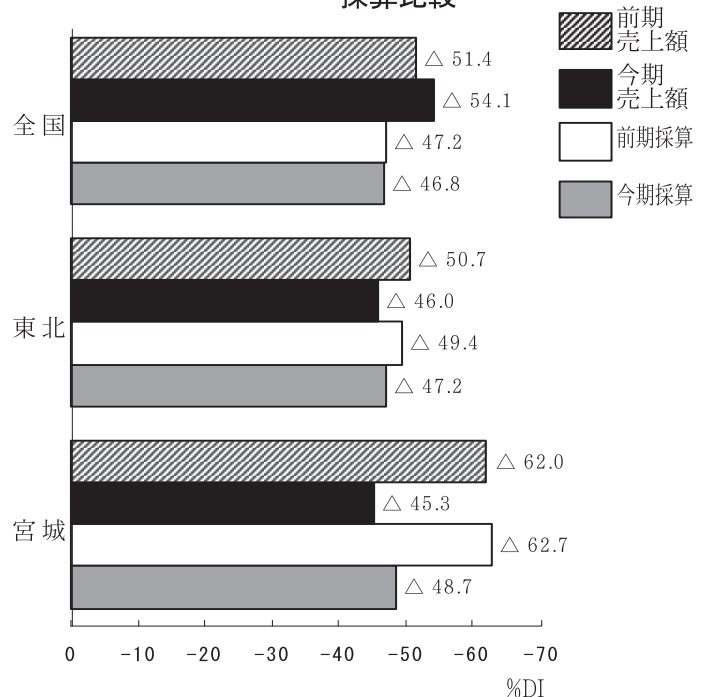
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国が下降、東北、宮城は上昇。宮城の上昇幅が16.7ポイントと大きい。

採算は、全国、東北、宮城とも上昇、売上額同様、宮城は14.0ポイントの上昇した。

一方、業況(自社)DIは、全国が△50.2(前期△49.0)、宮城は△59.0(同△65.8)であり、自社の業況認識についても宮城が改善した。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは、前期比16.8ポイント上昇、採算は、5.9ポイント上昇した。

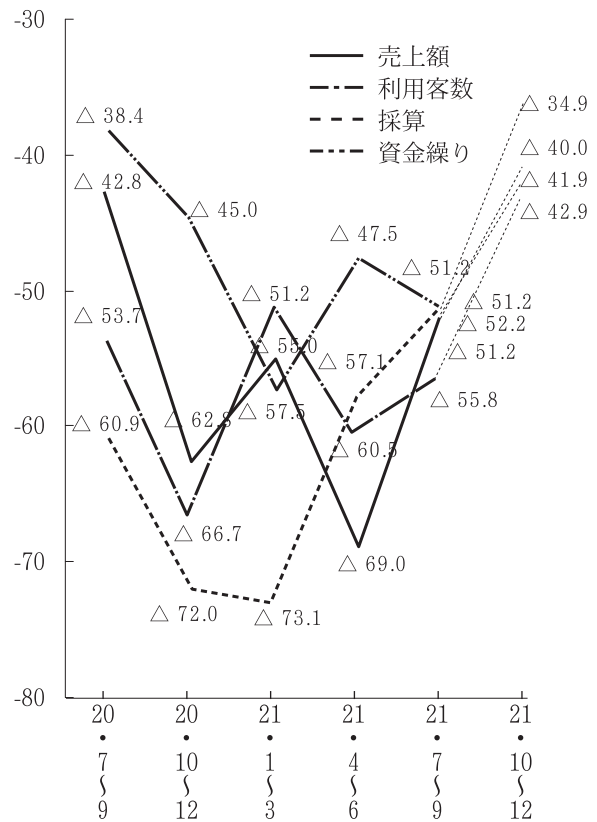
資金繰りは3.7ポイント悪化した。長・短資金借入難度も増加、借入金利も上昇、資金面の厳しさが示された結果となった。

一方、「利用客数」は改善したが、客単価が悪化、特に、「客単価低下」の回答が全体の41.9%（前期32.6%）と増加した。

業況（自社）D I Δ 51.2（前期 Δ 47.5）と自社の業況認識は下降した。

来期見通しについては、売上額、採算、資金繰り共に改善予測となった。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



② 主要景況項目別状況

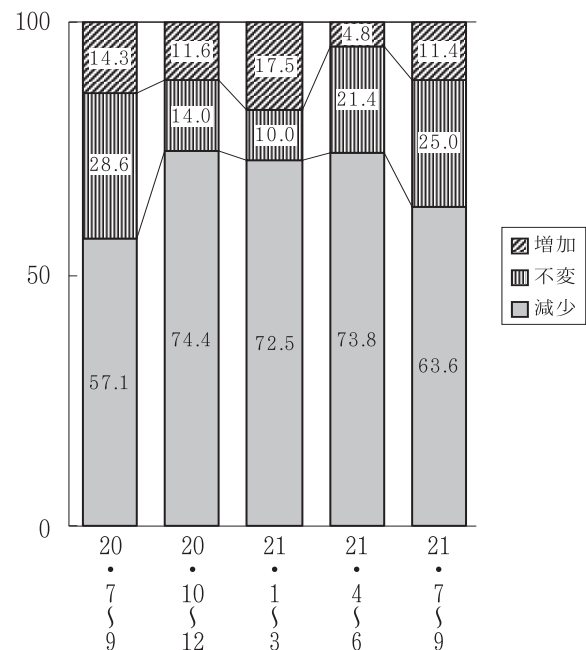
(a) 売上額

前年同期比で「増加・上昇」の回答は、6.6ポイント増加の11.4%である。

一方、「減少・悪化」の回答は、全体の63.6%となり、前期比10.2ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは Δ 52.2となり、前期比16.8ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)



(b) 採 算

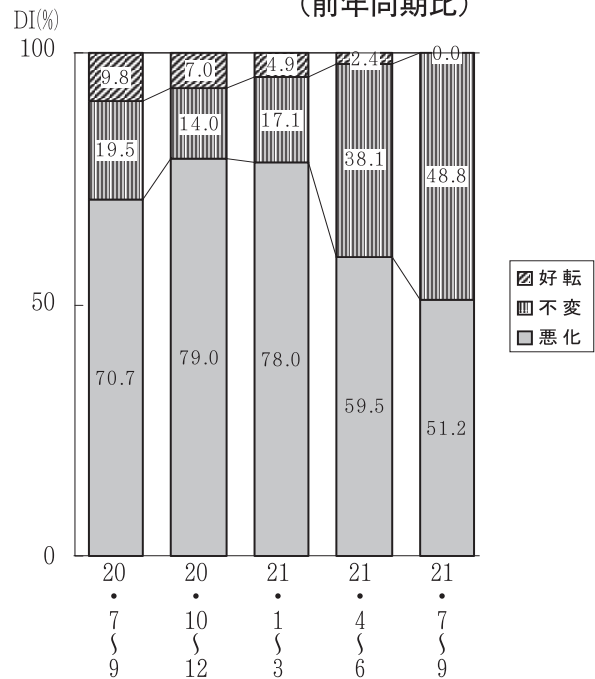
「上昇・好転」と回答した企業は、皆無（前期 2.4%）であった。

一方、「低下・悪化」の回答企業は、全体の 51.2% であり、前期比 8.3 ポイントの減少であった。

その結果、採算DIは△51.2 となり、前期比 5.9 ポイント改善された。

売上高、採算面ともに改善された。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



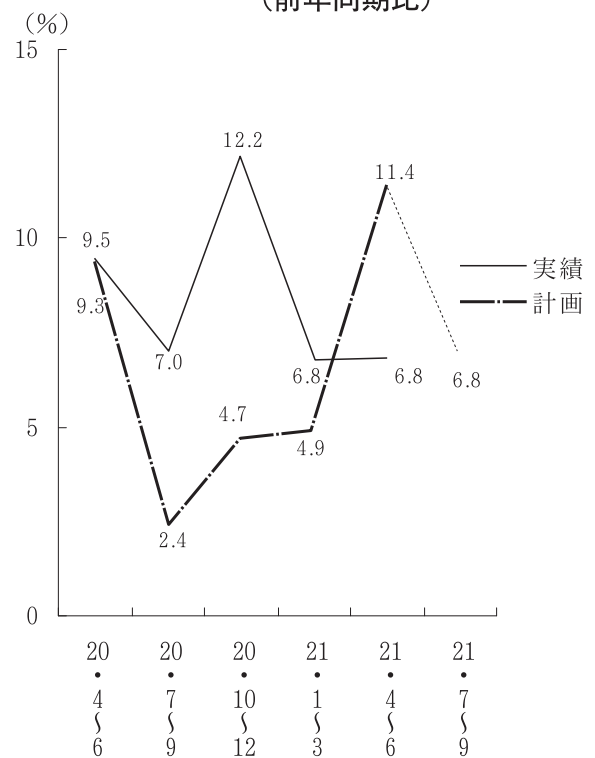
(c) 設 備 投 資

今期、設備を実施した企業は、全体の 6.8% (前期 6.8%) であった。

その設備内容は、車両運搬具、その他である。

来期に設備計画している企業割合は、今期同率の 6.8% であり、その内容は、付帯設備、その他を計画している。

図 4 - 4 設備投資の状況
(前年同期比)

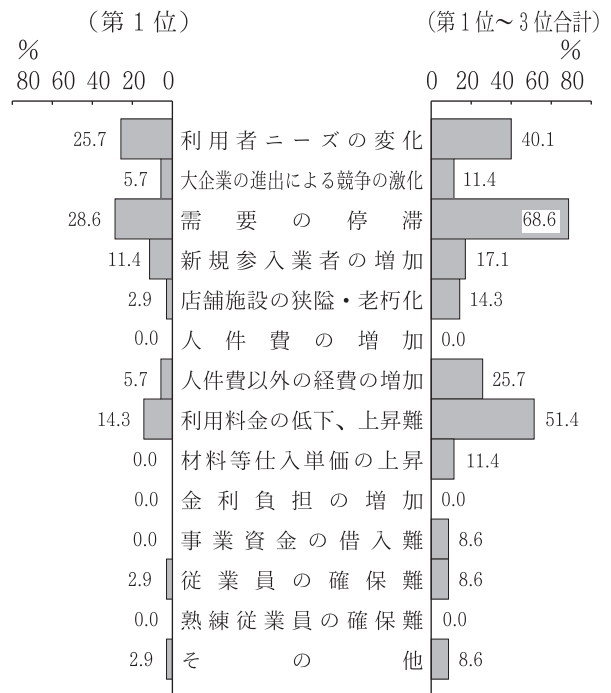


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が28.6%、「利用者ニーズの変化」が25.7%、「利用料金の低下・上昇難」が14.3%と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が68.6%（複数回答以下同じ）、「利用料金の低下・上昇難」が51.4%、「利用者ニーズの変化」が40.0%の順となっている。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

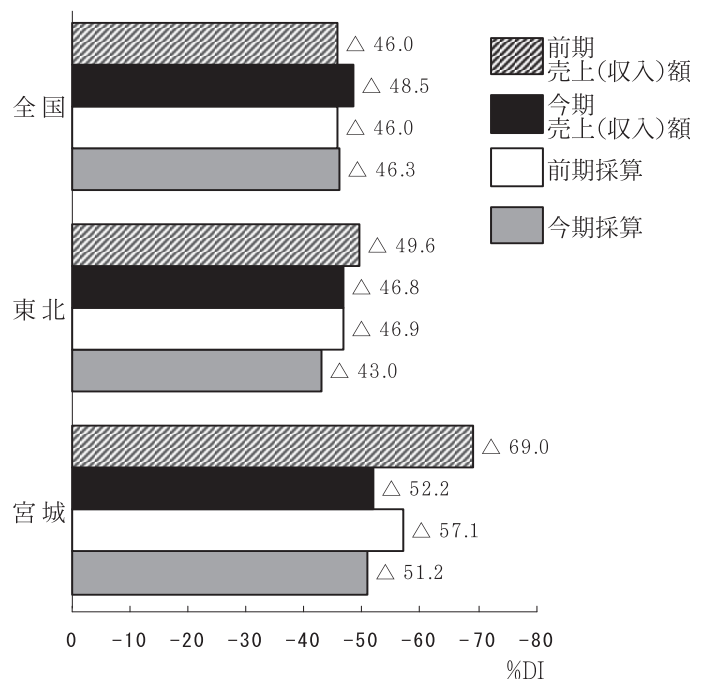
売上額DIは、全国が下降、東北、宮城は上昇した。宮城の上昇幅が16.8ポイントと大きい。

採算DIは、全国は横ばい、東北、宮城は改善した。東北、宮城は、売上および採算ともに改善した。

資金繰りDIは全国、宮城とも横這い、資金借入難度についてもほぼ前期並みの推移であった。

業況(自社)DIについては、全国が△45.7(前期△45.1)、宮城は△55.8(同△59.4)で、自社業況認識についての格差は依然大きい。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています